

新たな担い手を受け入れ育てる産地の育成 ～担い手確保から定着まで～

県南農林事務所 経営・普及部門

土浦地域では、茨城県産地担い手確保・育成応援事業を導入し、研修受入体制の整備を進めながら地域就農支援協議会と県南地域新規就農者確保育成プロジェクトチームで連携し、就農相談等を通じて新規就農者の確保を図りました。また、新規就農者や就農後間もない農業者を対象に農業学園を開催し、技術・経営支援と学園生相互の交流を行いました。

研修生受入体制の整備

各産地での担い手確保を図るため、茨城県産地担い手確保・育成応援事業を活用して受入体制の整備を行いました。朝日里山ファーム（石岡市）は、有機栽培の研修実践農場にパイプハウス等を導入し、毎年夫婦1組の受入れを見込んでいます。

また、やさと菜苑（石岡市）は、ネギの栽培研修を充実させるため、ネギ用自動収穫機を導入しました。これにより、研修環境が充実し、安定した就農者が見込めるようになりました。



写真1 朝日里山ファームで研修を開始した第1期研修生（左）



写真2 やさと菜苑で実施した農業体験ツアー

就農支援協議会による担い手の確保

普及センター、市、J A、農業三士で構成する就農支援協議会は、県南地域新規就農者確保育成プロジェクトチームと連携し、各地で開催される就農相談会に積極的に参加し、就農相談や農業体験ツアーを行うとともに、地域内の新規就農者の掘り起こし等を行いました。その結果、平成28年度は、土浦地域内で30名の新規就農者を確保できました。

農業学園による経営能力の向上

新規就農者や就農後間もない農業者48人に対し、平成28年度は年間7回の農業学園を開催し（写真3）、農業技術及び経営能力の向上を図るとともに、グループ討議や実習形式の講座を開催することで、受講生相互の交流場を設けました。

受講生からは、いずれの講座においても、理解度、活用度、満足度は5段階中4以上と高い評価を得ていたことから、ニーズに対応した講座を開催することができました。



写真3 農薬適正使用講座の開催